



有限会社藤間電業

まちを電気で支える、60年の経験



忍城のライトアップ、古代蓮の里への送電ケーブル、消防本部のLED照明。普段は意識しない場所の裏側に、有限会社藤間電業の仕事があります。創業は東京オリンピックが開催された昭和39（1964）年。先代の藤間富夫さんが家電販売店として始め、昭和57（1982）年の法人化を機に電気工事へと事業を拡大。現在は二男・貴之さん（工事部長）らが中心となり、公共施設から工場、民間施設まで、照明・受変電・空調・仮設電気など年間約80件を手掛けています。

電気工事は、配線や機器の取り付けだけでなく、現場ごとの条件に応じて進め方を考える仕事です。停電時間、搬入経路、交通状況などの条件は一つとして同じではありません。そのため、事前の段取りも重要です。今年度施工中の総合公園の受変電設備更新工事では、休館日に施設を停電させ、重さ約1.5トンにもなる変圧器などを交換。既存機器を撤去し、新しい機器を据え付け、配線・結線、試験を経て復電する作業を限られた時間で終えるため、無駄のない手順を綿密に組みます。一方、郷土博物館では受変電設備が屋上にあり、重量物を地上から吊り上げて交換する必要があります。そこで、60トンクレーンを手配。大型クレーンを入れるため道路を鉄板で養生するなど、作業そのもの以上に周囲への影響に

会社プロフィール

代表取締役 藤間 富子

【事業内容】照明・受変電・空調・仮設電気などの電気設備工事など

【所在地】富士見町2—18—14

※このコーナーで紹介する会社を募集しています。
特色ある業務を行っている会社の情報を広報広聴課（内線318）までお寄せください。

俳句 原爆忌三原則の揺らぎだす

【句評】世界で初の被爆国となった日本はあまりにも悲惨な核兵器の惨禍を体験し、自ら非核三原則を宣言した。核兵器を持たず、作らず、持ち込ませずである。しかし、昨今、この平和への希求が揺らぎ始めている。大国の横暴による世界秩序の乱れから、核抑止論が高まり世界中が浮き足立ってきたからである。そんな世に、警鐘を鳴らす一句である。

合掌し天を仰ぎぬ 蟬の殻 門井町 塚原 武夫

【句評】セミの声は時には地響きのようにたくましくうるさい。しかし、その生體は実にむなしく哀れさを誘う。6、7年もの間、地中で木の根の汁を吸って成長し、やっと地上へ出て羽ばたけるのは半月にも満たない。脱皮した殻はセミの姿そのものであり、風に吹かれて転がるさまは生きとし生けるものの無常感が漂う。掲句は私情を交えず客観で捉えた一句。

諦めも悟りのひとつ半夏生 緑町 松林 真弓

【句評】人生訓ともいえるような一句である。季節の半夏生には、一種類あつて、一つは夏安居の中間を指す7月2日ごろの時候の季語と一つは半夏生草という植物の季語である。共に半夏生と訳すので、句の内容を吟味してどちらの季語かを判別しなければならぬ。掲句は内容からして時候の季といえる。解釈の広がる奥の深い一句といえるだろう。

ががんばや死んでゆく日もだだこねて 門井町 宮田 淑尚

絡み付く蔦みちづれに山歩き 谷郷 羽石 芳道

盆踊り下駄にひび入るまで踊る 佐間 西岡 備中

ときばきとこなす息子の盆飾り 荒木 高澤よね子

伝えたきこと数多あり墓洗ふ 下忍 荒井 王子

新涼や白衣気にする新ナース 藤原町 斎藤雄次郎

しづかなる人の旅立ち 蟬時雨 樋上 吉澤とし子

（三沢一水選評）

来て！見て！

図書館

と し ょ かん

● ● ● ● ● ● ● ●

開館時間

午前9時～午後7時

休館日

10月1日木・2日金・5日月・
13日火・19日月・26日月、
11月2日月・4日水・9日月

※休館日/特別整理期間中の図書の返却はブックポストをご利用ください。
※「ぎょうだ電子図書館」をご利用ください。

【ID】利用者番号7桁（ハイフン不要）
【初回パスワード】生年月日8桁

●図書館●

佐間3—24—7（「みらい」内）

TEL:556—4227

FAX:555—3770



市民リサイクル文庫

不要になった本を、読みたい方に提供する「市民リサイクル文庫」を期間限定で開設します。不要な本がありましたら、次の期間内に図書館にお持ちください。

▶期 間 11月5日(木)～15日(日)
▶場 所 図書館入口
▶そ の 他 雑誌や経年劣化が著しい本や、カビ・汚れなどの状態の悪い本はご遠慮ください。期間終了後、残った本は図書館で処分します。

秋の読書週間特別映画会

▶日 時 11月3日(火)午後1時30分(午後1時10分開場)
▶場 所 「みらい」映像ホール
▶作 品 名 「アルジャーノンに花束を」(上映時間95分)※ダニエル・キイスによるSFファンタジー小説の名作。舞台をスイスのジュネーヴに移して映像化した感動渦巻くストーリー
▶定 員 70人(先着順)

ぎょうだ電子図書館 タイトル数を拡充

昨年よりご好評いただいている読み放題コンテンツ「るるぶ」(JTBパブリッシング)が、10月1日(木)から新たにタイトル数を25点から48点へと大幅にパワーアップします。読み放題コンテンツは貸し出し制限なく自由に読むことができる電子書籍です(要ログイン)。いつでもどこでもお楽しみいただけますので、ぜひご利用ください。

【ぎょうだ電子図書館】<https://web.d-library.jp/gyoda/>



マナーを守って図書館を利用してください

図書館で所蔵している資料に、つまようじやマチ針がはさまれたまま本棚に戻される悪質な事案が発生しています。次に本を利用される方や職員がけがをする恐れがあり、大変危険です。また、多くの方が利用する大切な資料を汚損してしまいます。図書館の資料にはしおり以外のものは、はさまないようにお願いします。皆さんが安全に気持ちよくご利用できるよう、今一度マナーの遵守にご理解とご協力をお願いします。

行田歴史系 391

資料がかたる行田の歴史 91

伊勢国の忍藩領へ陣屋詰め代官の手腕やいかに！

文政6（1823）年、松平忠義が新たに伊勢国桑名から忍へ国替を命じられると、藩領域も阿部家時代と比べて異動がありました。阿部家時代の損津分領2万石は幕府直轄領に村替となりましたが、松平家は桑名近郊の旧領の一部を継承する形で忍藩主となりました。これが忍藩伊勢分領の成立です。

忍城から離れた伊勢分領の統治に当たっては、大矢知陣屋（現四日市市）を拠点としていたことが分かります。陣屋には代官を中心とした藩役人が詰め、年貢収納にとどまらず、領内の民政に携わりました。その様子を一通の御用状を御用状

桑名藩役人宛て忍藩代官小川宗左衛門御用状(郷土博物館寄託小川家文書)

から紹介しましょう。

この御用状は、忍藩の大矢知陣屋詰め代官の小川宗左衛門が桑名藩の役人に宛てたものです。内容は、東海道桑名宿の人馬継立を周辺村々で補完する助郷役に関して、忍藩領の八王子・宝山・西日野各村に対して他宿の増高を賦課されると桑名宿の助郷を果たすことができない、と述べるものです。

さらに小川は御用状の中で「桑名宿や他宿の助郷とも、桑名領・忍領の差別なく元桑名城附拾万石村々の惣和融の勤め方になるようにしてほしい」と力説しています。これは、松平一下総守家が桑名藩主であった頃の旧城附領の範囲において、領主の別により負担の比重に差を付けないよう、桑名藩側へ働きかけたものです。このように、忍藩領民が負担の不利を被る取り扱いをけん制するために「元桑名城附拾万石村々」という旧領の地域的な枠組みを論拠として桑名藩に挑んだ忍藩代官の交渉手腕が御用状から垣間見られます。

なお本史料は、第39回企画展「忍藩十万石」（会期10月10日～11月23日）で展示します。ぜひ実物の史料から当時の忍藩領の世界をご堪能ください。

（郷土博物館 澤村怜薫）

俳句 ぎょうだ はいだん 壇田

俳句応募方法

一人3句以内。住所・氏名(ふりがな)・電話番号を明記の上、はがきまたは封書で広報広聴課まで。
※毎月末日必着
なお、一部添削して掲載する場合がありますが、不要であれば「添削不要」と記載してください。

原爆忌三原則の揺らぎだす

持田 小倉 繁三

合掌し天を仰ぎぬ 蟬の殻

門井町 塚原 武夫

諦めも悟りのひとつ半夏生

緑町 松林 真弓

ががんばや死んでゆく日もだだこねて 門井町 宮田 淑尚
絡み付く蔦みちづれに山歩き 谷郷 羽石 芳道
盆踊り下駄にひび入るまで踊る 佐間 西岡 備中
ときばきとこなす息子の盆飾り 荒木 高澤よね子
伝えたきこと数多あり墓洗ふ 下忍 荒井 王子
新涼や白衣気にする新ナース 藤原町 斎藤雄次郎
しづかなる人の旅立ち 蟬時雨 樋上 吉澤とし子
(三沢一水選評)